

NARO RESEARCH PRIZE SPECIAL II

単為結果性ナス「あのみおり」、 「あのみおり2号」の育成

単為結果性ナス「あのみおり」「あのみおり2号」育成グループ

齊藤 猛雄¹⁾、吉田 建実²⁾、松永 啓¹⁾、斎藤 新³⁾（¹野菜花き研究部門、²現 果樹茶業研究部門、³現 本部監査室）

研究の目的・背景等

ナスの施設栽培では、着果及び果実肥大の安定化のために、着果促進剤の噴霧や訪花昆虫の放飼が行われている。しかし、一つ一つの花への噴霧処理はきわめて煩雑であり、また、訪花昆虫の利用には、やや高めの温度設定を要し暖房コストがかさむ、さらに利用にあたり生態系への配慮も必要となる。そこで、自然に着果・肥大する単為結果性を有するナス品種を育成することで、栽培管理の大幅な省力化及び低コスト化を図る。

研究の概要

イタリアの単為結果性品種を素材に、わが国のナスへ単為結果性を導入した。育成した単為結果性ナス「あのみおり」、「あのみおり2号」は、しっかりとした肉質、栽培管理の省力化や低コスト化が図られることで、全国に普及しつつある（推定普及面積は36及び15 ha）。これらの品種が先駆けとなり、国内で新たに育成されるナス品種には、単為結果性が導入されるようになった。



「あのみおり2号」の果実

品種特性の比較

品 種 名	単為結果性	形状安定性	省力性	収 量 性
あのみおり	有	やや不安定	優	やや良
あのみおり2号	有	優	良	良
市販品種（従来）	無	優	並	優